

## 温かな眼差しに見守られる、大船渡の朝

地域の交通安全を支える交通指導員の日常



今年度から隊長に就任！交通指導員歴31年の阿部さん

阿部さんへ  
寒い日も暑い日も笑顔で見守っていてくださりありがとうございます。ごじはまたおかげで年間楽しく過ごせました。ここに来た日からいつも立っていてくれて、初めて来た私にとってはとても心づよかったです。朝、なつかしい心配な事があるも阿部さんとあいきをする事で元気になるました。小学生がほとんど全員来る8時近くまで立っていてすごいなあと思ったりもうれしかった。また休んだ次の日、ふだんあいきをした後、声がかたくなってその言葉のおかげで一日明るく過ごせました。今まで本当にありがとうございます。ごじはまた、ずっと元気でいてください。

子どもたちからもらった感謝の手紙は、阿部さんの大切な宝物です。

交通指導員として活動を始めたきっかけを教えてください。

息子が凍った通学路を自転車ですら走っていて、事故に遭ってしまったことがきっかけです。「私のように、家族が事故に遭って悲しい人を出したくない」という強い思

新年度が始まり、通勤や通学にも少しずつ慣れてきたこの時期。気の緩みから思わぬ交通事故が発生しやすくなる時期でもあります。「子どもたちが安全に通学できるように」「交通事故を未然に防ぐことができるように」という思いから、地域の交差点や横断歩道に立ち、住民の安全を見守っているのが交通指導員の皆さんです。今回の特集では、交通指導員の皆さんへのインタビューを通して、交通指導員の活動や思いに焦点を当て、その役割の大切さをお伝えします。日常に潜む危険を改めて見つめ直し、交通安全への意識を高めましょう。

問 市民環境課生活安全係（☎内線127）

いが、私の交通指導員としてのスタートでした。

交通指導隊の課題は何ですか？

交通指導員の高齢化と人材不足が課題です。本年度から新しく交通指導員になられた人は1人のみで、交通指導員一人一人の負担が大きくなっています。

31年の活動を支えてくれたご家族へのメッセージ

家族の協力があってこそ、交通指導員を31年間続けることができました。特に夫は、私が仕事をしながら交通指導員として活動を続けても、文句を言うことは絶対にありませんでした。活動を理解してくれて、ずっと支えてくれた夫には感謝でいっぱいです。

今後の意気込みを教えてください。

私の孫が、盛岡の交通指導員さんに見守っていただき、お世話になっていきます。その代わりに大船渡の安全を、精一杯見守りたいと思っています。「私だけではなく、皆さんに幸せになってほしい」という気持ち忘れずに、地域の交通安全事故防止に貢献したいです。

### あなたも交通指導員になりませんか？

- 市では、交通安全活動にご協力いただける交通指導員を募集しています。
- 主な活動範囲は、ご自身が住む地域となります(イベント時を除く)。
- 出勤日などは、それぞれの都合に合わせて調整できます(年間90回以上をお願いしています)。

随時募集中

交通指導員に興味がある人は、市民環境課生活安全係（☎内線127）までご連絡ください！

### 大船渡市交通指導隊とは？

交通指導隊は交通指導員38人で構成され、警察や交通安全協会などと連携しながら、交通事故を防ぐための活動を行っています。三陸・大船渡夏まつりなど、市のイベントにも出動しています。



### 交通指導員の任務

- 登校時の児童、生徒、園児の保護誘導
- 街頭指導(シートベルト着用、ライト早め点灯など)
- 交通安全教室への参加など、歩行者の安全確保を目的とした任務



# INTERVIEW

大船渡市交通指導隊 綾里班 村上 尚之さん

大船渡市交通指導隊 日頃市班 木下 静恵さん



綾里地区唯一の交通指導員！スクールガードも兼任する村上さん



交通指導隊最年少の45歳！交通指導員歴7年の木下さん

綾里地区唯一の交通指導員！スクールガードも兼任する村上さん

「これまでの活動で、「危ない！」と思った瞬間はありますか？」

私が通学の見守りをしている綾里小学校前の信号で、一度信号無視した車を目撃したことがあります。この信号は綾里で唯一の信号で、押しボタン式の信号のため、歩行者がいなければずっと青のままです。普段通り慣れている道で、いつも青だからという油断があった

「やりがいを感じていることは何ですか？」

自分の孫のようにかわいい子どもたちが、元気な顔で、安全に通学してくれる姿を見届けるのが一番のやりがいです。スクールガードも兼務していますが、大変さよりも、事故が起きないように少しでも力になりたいという気持ちが強いです。

「交通指導員になったきっかけを教えてください。」

定年退職後、当時の公民館長さんに声をかけられて、交通指導員になりました。地域の安全を見守るような活動の経験はなかったのですが、やってみようかなと思ったことがきっかけです。

子どもたちが横断する際、片側の車線の車が止まっても、もう片側の車線を走る車が止まらずに通る過ぎたことがあります。両方の車線の車が止まってから横断させているため、事故は起きなかつたのですが、子どもたちだけで横断していたら、道路を渡り始めていたかもしれません。

「これまでの活動で、「危ない！」と思った瞬間はありますか？」

子どもたちが横断する際、片側の車線の車が止まっても、もう片側の車線を走る車が止まらずに通る過ぎたことがあります。両方の車線の車が止まってから横断させているため、事故は起きなかつたのですが、子どもたちだけで横断していたら、道路を渡り始めていたかもしれません。

「活動のなかで、大変さを感じることがありますか？」

仕事や子育てをしながら、朝の忙しい時間帯に毎日見守りを行うのは正直大変です。当初は、見守りを行うことができない日や、時間を限定して見送りをする日もありました。大変さがありますが、子どもたちの安全を守っているというやりがいも感じています。

「交通指導員になったきっかけを教えてください。」

私自身も小学校5年生の時に、自動車にひかれた経験がありました。子どもたちには事故に遭ってほしくないと思い、交通指導員になることを決めました。

「活動の中で、不安に感じていることや悩みはありますか？」

綾里では私が唯一の交通指導員のため、自分も活動できなくなってしまうと、どうしようかという不安があります。昔に比べ

「活動の中で意識していることを教えてください。」

常に誘導棒を使って、雨の日でも、暗くても運転手の方が気づいてくれるように見守りをしています。夜は誘導棒を点滅させて、さらに目立つように工夫しています。それを見た子どもたちが「貸して！」と言って話しかけてくるのを見て、「かわいいなあ」と思

「これまでの活動で、印象に残っていることはありますか？」

小学校を卒業しても、会釈や挨拶してくれる子どもたちや親御さんが多くいて、とても驚きました。交通指導員として活動してよかったと思う瞬間です。

「活動の中で意識していることを教えてください。」

交通指導員の高齢化は不安に感じています。年齢や体調の関係で交通指導員を退任された方も多く、交通指導員一人一人の負担も

「活動の中で、不安に感じていることや悩みはありますか？」

子どもたちを横断させるときは、車が急ブレーキをかけないよう、ドライバーへ少しでも早く合図を出すことを心掛けています。

雨の日や雪の日は、道路が滑りやすくなったり、見通しが悪かったりするので、黄色い旗ではなく誘導棒を使って、少しでも目立つように意識しています。

「活動の中で、不安に感じていることや悩みはありますか？」

大きくなってしまうのではないかと心配もあります。新しく若い人が交通指導員として活動してくれると、とても心強く感じます。

「ドライバーの方へ、伝えたいことはありますか？」

交通指導員として横断歩道の近くで見守りしていると、運転中にスマホを使用している方を目にします。過去には、横断者が手をあげていることに気づかず、途中で横断者に気づいて急ブレーキを踏み、複数台の玉突き事故が発生した例もありました。こういった事故を防ぐためにも、スピードを抑えて、周囲に気を配りながら運転に集中してほしいと思います。

「市民の皆さんへ、伝えたいことはありますか？」

綾里の人たちは、車の運転中に歩行者を見つけたらしっかりと止まって、子どもたちがゆっくり横断しても嫌な顔せず優しく待つていてくれます。無茶な運転をする人もいないので、いつも感謝しています。今後も、歩行者への思いやりを持って、安全に運転してほしいと思います。

「活動の中で意識していることを教えてください。」

と通学の見守りをする場所が少なくなっていますし、交通指導員が綾里からいなくなるのは心配です。新しい交通指導員が早く見つかって、活動内容や大事なことを教えたいたいという気持ちです。



かわいい子どもたちの安全が一番と話す村上さん



木下さんが見守りをする横断歩道。歩行者が見えづらい危険ポイント（日頃市町関谷地内、④盛方面・⑤世田方面から撮影）